



犬の皮膚につく黒いカスとは？

原因・対処方法などを詳しくご紹介

ブラッシングなどを行っている際に、愛犬の皮膚に黒いカスが付着しているのを見つけた場合、どうすれば良いのでしょうか。今回は、犬の皮膚につく黒いカスの原因や、対処方法などをお伝えしていきます。



犬の皮膚に黒いカスが見られた場合は何が原因？

犬の皮膚に黒いカスが見られた場合、主に以下のような原因が考えられます。なお、飼い主さんの判断では原因の特定が困難ですので、動物病院で診断を受け、獣医師に原因を究明してもらうのが良いでしょう。

・ノミに寄生されている

ノミに寄生されている場合、ノミの糞の可能性が高いでしょう。黒いカスをティッシュに乗せて、水を数滴垂らしてみてください。黒いカスが溶けて、赤くなったらノミの糞だと判断することができます。

・メラニン色素が沈着している

メラニン色素とは、皮膚や被毛の色を作る色素のことを意味しています。メラニン色素は、日焼けなどをすることにより、色素沈着を起こし、皮膚に黒ずみを生じます。

・皮膚に汚れが付着している

毛穴に詰まった皮脂など、外側に排出されにくい汚れが溜まり、点在する黒いカスのように見える場合があります。

犬の皮膚の黒いカスがノミの寄生によるものだった場合の対処方法

・ノミが原因で引き起こされる病気や症状について

犬がノミに寄生されると、激しい痒みをもたらし、皮膚炎などの症状が発生する恐れがあります。子犬の場合は、大量のノミに吸血されると深刻な貧血の症状を引き起こすこともあり、早期の駆除対策を行わなければなりません。

また、ノミの体内には瓜実条虫(サナダムシ)の幼虫が寄生しているケースがあり、犬が体を舐める際に口の中にノミが入り、下痢や嘔吐などの症状をもたらします。

・ノミの駆除対策の方法とは

ノミの駆除は、飼い主さんによるブラッシングや、荷造りテープなどを活用した1匹1匹の捕獲、ノミ取りシャンプーなどだけでは根絶は難しいでしょう。そのため、動物病院で獣医師の診察を受け、処方された駆除薬を投与しなければなりません。

・ノミの駆除薬の種類とは

犬のノミの駆除薬は、主にチュアブルタイプとスポットタイプの2種類があります。

チュアブルタイプは、ジャーキー風味などのおやつフレーバーがついた錠剤を与えるタイプで、嗜好性が高く、食物アレルギーさえなければ、多くの種類の犬に幅広く与えることができます。

スポットタイプは、薬剤を犬の首の付け根などに滴下することで効果を発揮するタイプで、犬が食物アレルギーでチュアブルタイプの駆除薬を与えられない場合などに有効です。

犬の皮膚の黒いカスがメラニン色素の沈着だった場合の対処方法

犬の皮膚に付着した黒いカスの原因が、メラニン色素の沈着だった場合、ホルモン分泌の異常や、皮膚の炎症の慢性化などが見られることがあります。

なお、黒い斑点上の付着物以外に、「お腹あたりの皮膚が異常に黒ずんでいる」「左右対称の脱毛の症状が見られる」「普段よりも元気がない」「皮膚が黒ずんでおり、フケも多い」「頭部および足以外の体全体に脱毛の症状が出ている」などの場合は、注意が必要です。

犬の皮膚の黒いカスが汚れだった場合の対処方法

犬の皮膚の黒いカスが汚れだった場合は、飼い主さんの行うシャンプーや、綿棒などを使用した掃除では取りきれないことがあります。そのような際には、無理に拭き取ろうとせずに、動物病院へ連れて行き、専用の洗浄器具で洗い流してもらうのが良いでしょう。

犬の皮膚に黒いカスがついていた場合、動物病院で獣医師の診断を受け、原因を究明しましょう

今回は、犬の皮膚につく黒いカスの原因や、対処方法などをお伝えしてまいりました。

動物病院で獣医師の診断を受けることで、犬の皮膚に付着する黒いカスが、いったい何の原因で発生しているのかを特定することができます。

ノミに寄生されている場合は、駆除薬を処方してもらうことができ、メラニン色素が沈着している場合には、その他の疾病がみられないか、検診を受けることができます。皮膚に汚れが付着している場合にも、動物病院の専門の設備で洗浄を受けることができます。

犬は、完全室内飼いの猫と比べると、散歩に外出するなど、様々な寄生虫や病気の要因に接触しやすいペットです。そのため、定期的な健康診断は欠かさず受け、皮膚に黒いカスが見られるような場合、放置することなく、獣医師に速やかに報告するようにしましょう。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

☎ LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

